

今計画の基本方針と春日山城跡管理の理念

今回の「春日山城跡保存管理計画」の策定は、昭和55年(1980)の「保存管理計画」を踏まえたものです。その後の社会動向や指定地周辺における環境の変化、また地域と住民協働による新たな取組みを視野に入れて、現状や史跡の価値を見直すとともに、将来的な春日山城跡の保存と活用、整備公開、維持・管理等の方向を改めて示すものです。

史跡管理の4つの理念

①史跡の価値の見直し

地元に住居する人たちが先祖代々守って来た結果であり、住民の活動や生活環境とともに受け継がれてきたものです。

②地域とともにある史跡のための取組み

広く春日山城やその城主上杉謙信公に関連する文化や伝統的な活動も、史跡を構成、保存する要素と捉え、活性化することが求められます。

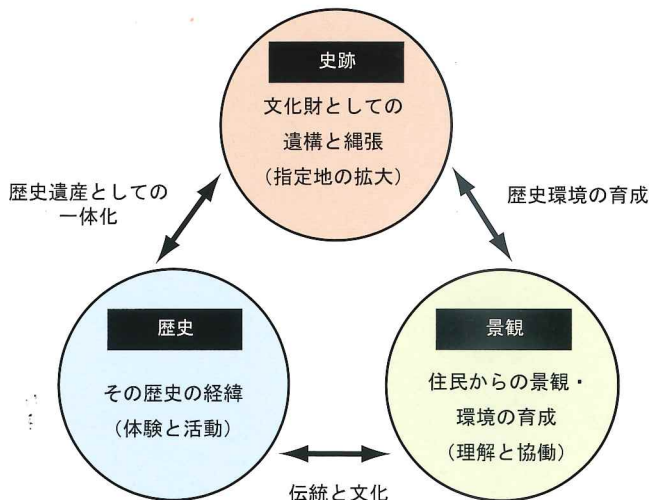
③史跡が記憶してきた歴史の再生

多くの市民や市外からの来訪者に対し、史跡のみならず、伝統産業や技術・文化など体験可能な史跡の活用を目指すものです。

④地域住民と協働で育成する歴史景観

従来の遺構の整備、復元等の公開活用のみでなく、市民との協働による整備の手法や公開、ボランティアガイド等の案内への育成と支援が、今後行政に求められるものです。

【春日山城跡の三つの価値とその内容】



広い意味での春日山城跡への理解と保存には、総合的な春日山城跡の価値として、

1. 史跡そのものの価値
2. 史跡が記憶してきた歴史
3. 歴史景観

の3つの要素が大きな価値として認識されるものである。

基本方針

- 1) 史跡の多面的な価値を踏まえた見直しと新たな保存管理
- 2) 史跡景観の保存と人材育成
- 3) 地域と共にある史跡のための現状変更の見直し
- 4) 市民協働による保存管理及び活用への推進
- 5) 防災・植生管理への対策
- 6) 整備・活用に向けての方策